《第114回》令和四年十二月の作品

〈十二月九日（金）　於・文京区民センター３Ｅ〉

亡き父の作業ベルトや煤払　（孝昭）

風花の舞ふや会津の武家屋敷　（一江）

野菜室（むろ）作り安堵の冬支度　（芙紗）

餅を搗く爺のよいしょに孫燥ぐ　（前歩）

図書館の明るき窓や冬紅葉　（隆治）

サッカーに一喜一憂冬の夜　（貴美）

紅葉の山の深さにしばし佇つ　（清助）

石畳掃く人もなく神の留守　（正雄）

一夜明け富士は全山雪化粧　（奉男）

ミリ残るドーハどよめく師走朝　（正佳）

住む人のなきマンションの破障（やれ）子　（平六）